

資料 6

意見交換

【幕別町】小学生を対象とした防災教育プログラム支援

○幕別町立白人小学校の4年生を対象に行われた防災教育プログラムへの支援を実施した。水害に限定した内容ではないが、水害を含めた災害に対する意識の向上を図る目的で実施したもの。

日時 令和3年11月22日、24日

場所 札内コミュニティプラザ、札内地区防災備蓄倉庫、白人小学校

参加者 住民 約36名

＜実施内容＞

- ①防災備蓄庫を見学し、防災備蓄品について学ぶ
- ②避難所の体験（ダンボールベッド、パーティションの組立て、断水時の簡易トイレなど）
- ③防災カードゲームの実施（主催者オリジナルのカードゲーム、想定災害や物資名などが書かれたカードを引き、状況に応じてどのような物資が役に立つのかなどを考えるゲーム）
- ④火起こし体験、非常食の試食



■幕別町では町民の水害に対する危機管理意識向上のため、国土交通省が推進する「まるごとまちごとハザードマップ」の一環として、浸水想定区域内の公共施設等に想定浸水深を示す標識を令和3年に設置しました。

実施概要

実施年:令和3年 実施場所:札内東中学校 ほか
主催:幕別町、コンサルタント会社協力

- ・学校やコミュニティセンターなど、日常的に利用する公共施設に設置することによって、想定浸水深の周知及び防災意識の向上が期待出来る



札内東中学校



猿別近隣センター

【中札内村】村民を対象とした避難訓練の実施

○村民の防災意識向上、発災時の行動確認等の目的で、河川で氾濫の危険性が高まったという想定で、避難訓練を実施した。

日 時 令和3年10月13日

場 所 中札内村文化創造センター

参加者 住民 約130名

参加機関 中札内村、十勝総合振興局、帯広測候所、帯広開発建設部

○参加者からのコメント

「実際の避難所の様子を体験することができて勉強になった。」



【鹿追町】公式の情報アプリを導入し緊急情報を発信！

鹿追町では公式アプリ「mishika」を開発し、町からのお知らせや防災マップの閲覧、防災行政無線で放送した内容を確認できるようになりました。

併せて、アプリ・メール・LINE・Facebookへ一斉に情報配信するシステムを導入し、鹿追の情報をタイムリーに発信する環境を整備しました。



① 欲しい情報を選択できる！

※災害・気象・交通・その他緊急情報ならびに町からのお知らせは必須選択項目となります



○外国人技能実習生に対する防犯・交通安全講話において、十勝地方の地理や気候、防災対策に不慣れな実習生に対して、防災講話と屋外への避難訓練などを実施し、防災意識の高揚を図った。

日 時 令和3年9月21日

場 所 陸別町 特別養護老人ホームしらかば苑

参加者 技能実習生12名、本別警察署員4名

○参加者からのコメント

「災害は、いつ起きるかわからないので少し不安です。」

「避難指示が出たときは、職員の指示をよく聞いて対応します。」



【本別警察署】高齢者に対する防犯講話

○高齢者に対する防犯講話において、過去に管内で発生した災害を説明し、災害発生時の避難要領や平素からの準備が大切なことなどを説明して、防災意識の高揚を図った。

日 時 令和3年10月18日

場 所 足寄町芽登本町 芽登寿の家

参加者 芽登老人クラブ会員15名、本別警察署員2名

○参加者からのコメント

「事前準備の他に身近な人との協力が大事だとわかりました。」

「自分の命は自分で守らないといけないですね。」



○外国人技能実習生に対する防犯安全講話において、十勝地方の地理や気候、防災対策に不慣れな実習生に対して、管内の避難所マップを示して、河川氾濫等における避難要領などを説明し、防災意識の高揚を図った。

日 時 令和3年5月12日

場 所 大樹町農業協同組合会議室

参加者 技能実習生30名、広尾警察署員3名

○参加者からのコメント

「知らないこともあったので勉強になりました。」

「災害が起きそうなときは避難しようと思います。いつでも避難できるように準備しておきます。」



○令和3年10月26日 河川協力団体との意見交換
NPO法人十勝多自然ネット、帯広NP028サポートセンター
十勝川中流部市民協働会議

【主なご意見】

- ・ 十勝川流域で考えられる対策として、音更川だと左右岸に、霞堤が整備されているし、音更川左岸の河岸段丘を活かす方策は考えられないか。
- ・ 川が増水した際、その様子を見に来る住民の数が非常に多い。見かけた場合は避難を呼びかけたり、SNSで水位の情報を発信したりはするが、個人だけではどうにもならない。川の防災情報のホームページがあるが一般の方はその存在を知らない。画像はスマホでも見ることができることをもうすこしPRすべきではないか。



会議の様子

○令和3年11月30日 町内会長（池田町）
○令和3年12月 1日 町内会長（音更町）

【主なご意見】

- ・ まるごとまちごとハザードマップについて、町内会でも説明を行ったが、本当にそのような浸水深になるのか疑問をもっている方もいる。どのように浸水深が深くなっていくのか具体的なストーリーを持たせた説明が必要と感じる。
- ・ H28出水時は広報車により避難の呼びかけを行ったが、雨音と最新の住宅の密閉性により聞こえないという住民もいた。
- ・ 避難所の受け入れは町内会の役割であると考えている。 H28出水を踏まえ、町内会連合会では、避難所運営委員会を設立して、受付や看護の役割分担と要配慮者の名簿の整理をしている。

○令和3年12月7日 帯広商工会議所

【主なご意見】

- ・ 会員企業に対しては、BCPのセミナーで防災に関する普及をすすめている。
- ・ 商工会議所では、企業向けの情報発信が大事だと考えている。企業の経営に特化したものだけでなく、今後は、防災に関しても発信することが必要だと考えている。



帯広商工会議所

○令和3年12月8日 JA帯広かわにし

【主なご意見】

- ・ 洪水による被害よりも暴風雨による農作物への直接的な被害に気を遣っているところ。
- ・ 具体的な洪水対策の取組は実施していないが、排水路の整備により、以前よりも浸水被害は少なくなった。
- ・ 浸水域の集荷施設での浸水対策などについて、他の施設での情報提供をいただきたい。



JA帯広かわにし
(帯広開建農業整備課)

○令和4年1月28日 とがち防災マスターネットワークとの意見交換

【主なご意見】

- ・ 浸水域に学校があり、子供、親、先生皆不安になっている。避難所にもなっており、学校ともきちんと連携すべきではないか。
- ・ 防災マスターができることは、防災教育等となり限界があると考えている。国からの情報発信が重要。
- ・ 気候変動等を想定すると新しい取組も必要ではないか。



会議の様子

市町村防災担当職員を対象とする防災対応力の向上を図る取組

- 十勝川外減災対策協議会において策定した、十勝川流域外河川の減災に関する取組方針に基づき、市町村防災担当者を対象に『十勝川流域豪雨災害対策職員研修』を実施した。
- 本研修会では、寒地土木研究所及びH28年出水当時の帯広河川事務所長から講話をいただいた後、北海道大学、釧路地方气象台、北海道開発局及び寒地土木研究所から、SIP国家レジリエンスの強化や3Dハザードマップの作成について、実際にPCを活用して実務的な演習を実施した。

<実施概要>

実施日：令和3年11月26日（金）

主催者：帯広開発建設部

場所：帯広開発建設部 災害対策室

参加機関：帯広市、音更町、上士幌町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、帯広建設管理部、帯広開発建設部帯広河川事務所

参加人数：20名

実施内容：

日程	時間	実施項目	実施内容	講師等
11月26日	10:00~10:05	開講式	治水課長挨拶	帯広開発建設部 治水課長 川住 亮太
	10:05~10:10	オリエンテーション	研修の流れなどの説明	帯広開発建設部 治水課 流域計画官 橋本 慎一
	10:10~10:40	講話	十勝川流域の河川災害・浸水被害の特徴	寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 寒地河川チーム 主任研究 川村 里実
	10:40~11:10	講話	平成28年十勝地方における豪雨災害時の対応について	株式会社 中山組 執行役員技術部長 藤田 隆保
	11:20~12:10	演習	PCを活用した防災情報の収集	釧路地方气象台 地域防災官 帯広開発建設部 治水課 流域計画官 安原 裕貴 橋本 慎一
	13:00~14:50	演習	理解しやすく利用しやすい3D浸水ハザードマップの作成	寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 寒地河川チーム 上席研究員 寒地河川チーム研究員 大串 弘哉 平松 裕基
	15:05~17:00	演習	SIP 国家レジリエンスの強化	北海道大学 大学院工学研究院 土木工学部門 河川流域工学研究室 学術研究員 鈴木 章弘
	17:00~17:05	閉講式	治水課長挨拶	帯広開発建設部 治水課長 川住 亮太

<実施状況>



<参加者の声>

- ・ 十勝川流域の河川災害の特徴や、H28年出水の災害復旧に関する内容について、注意すべき災害形態や災害時の対応方法等を習得することができた。
- ・ 演習では、SIP国家レジリエンスの強化や3Dハザードマップの作成方法を習得することができた。是非取り組みに参加したい。



新型コロナウイルスの感染拡大状況とは関係なく発生する水災害に対応するため、防災強化の機会を先送りにすることなく、防災関係機関の迅速な情報共有と一層の連携強化を図ることを目的として「情報伝達訓練」を実施した。

実施概要

実施日：令和3年9月9日(木)

実施場所：帯広開発建設部

参加機関：帯広開発建設部、北海道十勝総合振興局、釧路地方気象台、音更町、士幌町

実施内容：帯広開発建設部に訓練本部を設置し、テレビ会議システムにより音更町、士幌町、釧路地方気象台及び北海道十勝総合振興局と繋いで災害時のホットラインを確認

実施状況



テレビ共有画面



浸水ナビ等を
画面共有し
ながらホット
ラインを実施



実施概要

- 概要：音更町立木野東小学校の4年生を対象に行われた防災教育への支援を実施。
「水災害からの避難訓練ガイドブック」を活用し、新学習指導要領を踏まえた理科及び社会に関わる教科内容での学習及び避難訓練の支援を実施。
- 実施日：理科 令和3年10月 7日(木)・・・川の水の仕組み
社会 令和3年10月 8日(金)・・・洪水から暮らしを守る人たちの仕事
避難訓練 令和3年10月14日(木)・・・浸水範囲を理解し、避難所までの経路を確認
- 学校：音更町立木野東小学校 4学年 3クラス 91名

防災学習・避難訓練実施状況

- 防災学習の主体は先生が進行し、ポイントで国土交通省職員が解説を行った。
- 音更町職員から避難するときの心得等について説明を受け避難訓練を実施。避難場所までの途中で北海道防災マスターからH28出水の様子等の説明を受けた。



防災学習の様子

避難訓練の様子